

H.30
(2018年)

七月（今月の掲示板）

真宗大谷派・願成寺

『老化を病気』と思ひ込み、苦惱していませんか？

佛教では『如実知見』もの事（眞実）を、ありのままに見る』を説きます。何十歳にもなると体の何処かが悪くなるのは、病氣ではなく自然の成り行き・老化です。が、自己中心の人間は『ありのままの自分を生きること』が難しく、若くて健康が善い・不健康は悪と決め込む『物差し（自我分別心）』を捨てられずに苦惱します。

お釈迦様は『人生が思い通りにならないのは、人には多くの煩惱・欲があるからで、煩惱を抑えると苦惱は無くなる』と説かれました。『門徒もの忌み（嫌う）知らず』と言われます。物忌みとは『罰が当たる・祟りがある』などの迷信を指します。親鸞聖人は『念佛者は無碍の一道なり』念仏申しながら生きる人は、碍げ（邪魔）の無い一本道を行く者です』と言われました。良い雨・悪い雨、好き嫌い、損得などを自分の物差しで計り、日々の出来事を自我分別で決めてしまう私です。が、そんな分別に左右されず、無碍の一道を歩んで行きたいのですね。

主な参考資料

(1) 野々目了(著)『如実知見』、月刊・『花すみれ』(2018年6月号)、p.257、真宗大谷派

(2) 藤谷博紀(著)『法話Ⅱ』、月刊・『花すみれ』(2018年6月号)、p.16~20、大谷婦人会

(3) 山崎龍明(著)『獨世を親鸞と生きる』、樹心社、p.15~32(2002年)。

大谷婦人会